

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：高松 諭

事業名	地域高規格道路 中津日田道路 一般国道212号 日田山国道路	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自：大分県中津市山国町大字守美 至：大分県日田市大字三和			延長	8.8km
事業概要					
当道路は、大分自動車道と東九州自動車道及び重点港湾中津港を連結する地域高規格道路中津日田道路の一部を担う延長8.8kmのバイパス事業である。中津・日田地域の連携を強化し、地域産業の活性化や、災害時の救援活動や代替路としての機能確保等を目的としている。					
H27年度事業化	都市計画決定無し	R1年度用地着手	R2年度工事着手		
全体事業費	約408億円	事業進捗率	約28%	供用済延長	— km
計画交通量	13,300台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 250/375億円 事業費：240/365億円 維持管理費：10/10億円 更新費：0/0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 567/567億円 走行時間短縮便益：484/484億円 走行経費減少便益：63/63億円 交通事故減少便益：20/20億円	基準年 令和5年	
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.4~1.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.0~2.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4~1.6 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.1~2.5 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4~1.6 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.1~2.4 (事業期間±20%)					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害や冬期における事故等の通行障害を回避するリダンダンシーの確保 ・ 北部九州に集積する自動車産業をはじめとする産業・物流の支援強化 ・ 耶馬溪・山国地域における広域救急医療体制の強化 ・ 日田や耶馬溪を周遊する広域観光ルートの形成によるツーリズムの推進に資する道路である。 					
関係する地方公共団体等の意見					
・ 日田山国道路は地域産業の活性化や災害時の代替路機能の確保など重要な役割を果たすことが期待されており、沿線自治体で構成される「中津日田間地域高規格道路整備促進期成会」から、本事業の早期完成の要望を受けている。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約40%、事業進捗率約28%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、トンネル工事等を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
建設発生土の事業内流用やトンネル工事のコスト縮減等、総コストの縮減に努めていく。					
対応方針					
事業継続					
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

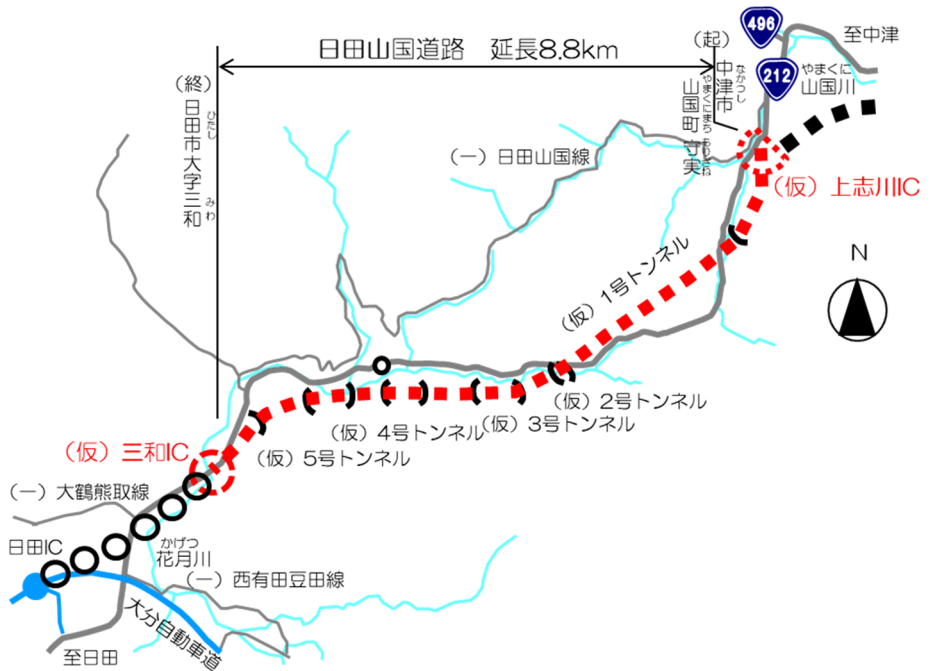
事業概要図

日田山国道路



	調査区間	事業中	事業中	供用区間 (R3.2)	供用区間 (H24.3)	事業中 (H31.3)	供用区間 (H27.2)	供用区間 (H21.3)	供用区間 (H27.3)	供用区間 (H27.3)
区 間	日田市内	日田山国道路	耶馬溪山国道路	耶馬溪道路	本耶馬溪 耶馬溪道路	三光本耶馬溪 道路	中津三光 道路	中津道路・中津港線②	中津港線① (臨港道路)	
延 長	約4.0 km	8.8 km	8.5 km	5.0 km	5.0 km	10 km	2.8 km	3.0 km	3.6 km	3.4 km

※「調査区間」とはルート調査、道幅調査、等の調査を進める区間のこと。



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。